

「美しい“ふじのくに” まち・ひと・しごと創生総合戦略の取組状況」 に係る事前意見

【NPO 法人いとう子育てネットワーク・ゆう】

定住やリターンを目指す方策の一つとして、子育てしやすい環境づくりに取り組んでいる団体からの感想や評価を述べます。

「いとう子育てネットワーク・ゆう」は伊東市から委託を受けた子育て支援団体です。家庭訪問型支援を中心として、産前から産後までの切れ目ない支援を行っています。

今年度は、毎月1回開催のおさんぽ会・年間4回開催の転入ファミリーウェルカム Cafe、美容院や健診への付き添いをする子育てサポートを新規の行事として取り組んできました。子育てで必要な物（服やおもちゃ・育児用品等）をリサイクルできるよう、年2回の交換会を開催、事務所でも随時交換できるようにしています。

今年度から始めた転入ファミリーウェルカム Cafe には、県外・市外から転入されてきた家族が参加し、伊東市に転入してきた理由・伊東市の良いところ・不便なところ等を出し合い、交流を深めています。

転入者からは、自然豊かな環境は良いが、病院や買い物には不便さを感じているという意見が多く聞かれます。転入されてきた方の率直な感想を聞き、少しでも住みやすい場所になるよう、行政にも意見をあげていこうと考えています。

私たちの活動は、だんだん認知されてきて、気軽にサポートを利用するママが増えてきました。育児に不安を抱えているママに「一人で頑張らなくて良いんだよ」と声をかけています。出産・子育てを応援している私たちの活動が ”子育てしやすい伊東市” に少しでもつながればと思います。

【社会福祉法人梓友会】

各部署で進捗があり、目標値以上の成果が出ていることがうかがえるため、今後も同様に続けていただきたい。

一方で、特殊出生率や観光客数などのさらなる向上のために、他の地域と同水準のインフラ整備(コワーキング・移住 SNS など)に加え、ICOI やジオパーク等、当地域独自の魅力づけをさらに拡充していただきたいと思います。

【熱海市観光協会】

コロナ禍において、当協会においては2020年以降観光プロモーションの開催を控えていましたが、2022年になり少しずつ開催される運びとなりました。JR 東日本との連携により、関東地方の主要駅にて開催される伊豆産直市への観光 PR ブースの出展など、今後も機会は増えていくと思います。

当協会と姉妹関係にある「郡山市観光協会」「磐梯熱海温泉観光協会」の縁で福島県郡山市で10月に開催された「こおりやま産業博」というイベントに3年ぶりに観光 PR ブースを出展しました。観光 PR やパンフレットの配布のほかアンケートにお答えいただいた方を対象に、お菓子やみかん、入浴剤等の名産品が当たる抽選会を実施しました。

今後もコロナ禍は続いていくと思いますが、ウィズコロナの中、感染症対策を講じながら積極的な観光振興を行っていきたいと考えています。

【静岡銀行】

新型コロナウイルスの感染拡大により、多くの事業者が厳しい経営を強いられる一方、テレワークやリモート会議の定着によって新たな働き方や暮らし方が生まれており、本県への移住者数の増加を後押ししているものと考えられる。今後、本県が東京一極集中是正の大きな受け皿となれるよう、伊豆地域の地理的優位性や地域資源を活かした施策を希望する。

伊豆地域において、ICOIプロジェクトにより新たなヘルスケアサービス産業が創出され、雇用の受け皿づくりや関係人口の拡大が進展することを期待したい。

アフターコロナや円安により、インバウンドの回復が予想される。観光消費需要喚起に向けたDMOの関与や実績についても注視していきたい。

【スルガ銀行】

県内出身大学生のUターン就職率アップのため、県外大学との就職支援協定を増やしつつ、協定先との連携強化を図るとともに県内企業へ県外大学での就職説明会開催推進し、学生へ県内企業の魅力を伝える必要がある。

デジタル化が言われている中、各企業で専門の人材を確保することが課題となっている中、兼業・副業の活用や社内人材を教育して育成することも必要であると考えます。

県内企業の創業、成長、承継のライフサイクルの各ステージにおいて金融機関は一番身近な存在であることから地域事業者へアプローチし、ニーズや課題を確認し、各ステージで県制度融資の活用や事業承継診断を実施し、事業承継の課題等をヒアリングし、静岡県事業承継引継ぎ支援センターと連携し、取り組みしております。

また、外国人材の受入促進では、当社は、理系エンジニアに従事する高度外国人材を紹介する企業と業務提携し、ニーズのある県内企業へ同サービスを提案している。人材受入ではないが、外国人従業員向けの生活支援サービスを提供することで外国従業員の企業への定着を図っている。また、外国籍のお客さまの口座開設やオートローン取扱いにより、外国籍の方の生活の質向上につなげております。

【三島信用金庫】

「まち・ひと・しごと新聞」

伊豆地区の高校4校（韮山高校、日大三島高校、沼津東高校、熱海高校）に地域貢献に活躍している企業、団体、個人を取材してもらい新聞を発刊しています。

現在も編集中で今年度第7号となります。

地域貢献しながら仕事に取り組んでいる方々を取材することが高校生にとって、とても新鮮で刺激を受けているようです。

大学卒業後、リターン就職を促す活動で、東部地域局様にも協力を頂き 13,000部を発刊しています。

「今年度、信用金庫社会貢献賞 地域活性化しんきん運動・優秀賞」の表彰を受けました。この賞は、全国 157 信用金庫・4 関連団体から 569 件の応募（推薦）の中から選ばれたもので、弊庫にとって大変名誉なことでした。

【伊豆新聞本社】

全国の小学6年、中学3年を対象に実施されている全国学力・学習状況調査（全国学力テスト）の成績も、子育て世代の移住促進、人口減対策につながる出生率の向上に寄与するのではないかと文科省は2017年度から全国都道府県のランキングを出していないが、かつては秋田県が独走していたように記憶している。賀茂地区は過疎を逆手に取り、少人数教育で教育レベルを徹底的に引き上げることも必要ではないだろうか。

【伊豆市】

【資料1】 4-1 結婚・妊娠・出産・育児の切れ目のない支援 P105

当市における少子化の原因の一つとして、未婚率が高いことがあげられる。そのため今年度も婚活イベントの実施など、婚活支援事業に取り組むとともにふじのくに出会いサポートセンター会員の登録者を増やすべく市民への周知を実施している。

今後も、婚姻率を向上させるべく県市が一体となって事業を進めていくことが大切だと考える。※伊豆市内登録者数：6人（2022.11.30時点）